

38 内因子抗体測定キットの基礎的および臨床的検討

樋口利行, 酒井一吉, 国分啓二, 五十嵐忠行,
鈴木照夫, 松田 信, 内田立身, 刈米重夫

(福島医大 一内)

悪性貧血患者血清中には内因子抗体が存在する事は知られており, またある種の疾患においても比較的低頻度に存在するとされている。今回我々は米国コーニング社製の Immo phase IF blocking antibody [^{57}Co] radioassay kit を用い, その基礎的検討と臨床的検討とを行なったので報告する。

基礎的検討については測定内再現性は, 変動係数(c.v.)で2.1~7.2%であり, ロット間変動, 測定日間変動, 測定者間変動にても良好な成績がえられた。さらに稀釈試験, インキュベーション温度及び時間の影響, 正確性—判定不能範囲の測定, 回収率, 抗体添加試験等の検討を加え, 満足する成績がえられた。

臨床的検討は, 正常人, 悪性貧血, 胃癌, 膀胱癌, 肝癌, 白血病, 悪性リンパ腫等の悪性疾患及び良性疾患で行なった。そのうち, 胃癌, 悪性リンパ腫で陽性を示したものが多かった。抗体陽性27例について更に検討を加えて報告する。